



..... CONTENTS

● 新春のご挨拶

● 『実践ベンチマーキング in 郡山』開催

● 『トップの集い(経営懇話会)』開催

● 『アセスメントコース』開催

新春のご挨拶



埼玉県経営品質協議会 原 敏成 代表幹事

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。会員企業の皆様におかれましては、ご清祥にて新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2018年の我が国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、景気は緩やかな回復が見られた一年でありました。一方、大企業の不祥事が数多く報道された年でもありました。2019年には予定通り10月に消費税率が10%に引き上げられる見込みですが、翌年にオリンピック・パラリンピックを控えていることから経済の回復基調は維持されると期待しています。

そのような状況の中、2018年度の当協議会の事業は、経営品質に取り組む先進企業への研修、経営品質を向上させる為のセミナーなどの事業が計画、実施されています。具体的には、「経営品質実践塾」

の中でベンチマークとして、11月に2016年度日本経営品質賞（大企業部門）を受賞した日本全薬工業株式会社様へ訪問し、2月には2017年度に新潟県経営品質賞を受賞された日鉄住金工材株式会社様への訪問も計画されています。

また、2018年度の埼玉県経営品質賞には4組織から申請があり、大変有難く思っています。これから審査が行われますが、良い結果が得られることを期待しています。

当協議会は、会員企業の活力と成長の一助になることを目指して事業の企画・運営を行ってまいりますので、2019年も引き続き当協議会事業にご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。

今後の予定

- 2月22日 ベンチマーキング in 上越
日鉄住金工材株式会社
(2017年度新潟県経営品質賞)
- 3月4日 埼玉県経営品質賞判定委員会
- 3月11日 埼玉県経営品質賞委員会
プレスリリース
- 5月20日 埼玉県経営品質協議会総会
顧客価値経営フォーラム
埼玉県経営品質賞表彰式
受賞組織報告会

日本全薬工業株式会社 (2016年度 日本経営品質賞受賞 大規模部門)



11月2日(金)、2016年度日本経営品質賞受賞企業である日本全薬工業株式会社(ゼノアック)様に訪問させていただきました。

事業内容は、動物用医薬品および医療機器等の研究開発・製造・輸出入・販売で、特に業界唯一の直販体制が特徴となっています。

2008年より経営品質向上活動を本格的に行い、2012年に経営革新推進賞を受賞、2016年には日本経営品質賞を受賞、2017年にはふくしま産業賞・県知事賞を受賞されています。

天候にも恵まれ、秋晴れの中、総勢24名で伺いました。高野相談役、森尾専務他たくさんの従業員の方々が迎えていただき、丁寧に経営品質活動を説明していただきました。まず初めに驚いたところは、日常の挨拶がすべて「ありがとうございます。」で統一されているところです。1967年から続けている挨拶は、ゼノアックにつながるすべての人々と動物に感謝する気持ちがこもっているそうです。そして感銘を受けた活動の一つに、車座対話があります。経営幹部が5～7人の社員と車座になり、自由に対話をします。社長と専務は部署横断的なメンバーと定期的に開催し、役員計20人による車座

対話の参加者は、年間延べ2,100人(社員1人当たり年平均3回)に及ぶそうです。対話のテーマは経営品質の4つの考え方をベースにそれぞれ工夫をし、社員は忌憚のない意見を述べ、経営幹部は一般社員に直接語りかけることで、お互いの理解が深まり、社員満足につながりだけでなく、意見は経営施策にも反映されることでした。

セルフアセスメントにも力を入れているとすることで、認定セルフアセッサーは、50名を超えることでした。各部署に認定セルフアセッサーを配置し、毎年「全社セルフアセスメント」を行い経営理念、組織プロフィール、経営方針、部署方針、個人目標までの一貫性を皆が理解できる仕組みが実行されていました。

さらに「全社員参加の部署別アセスメント」を実行し、改善課題を次年度部署事業計画へ盛り込むことで、計画の納得性、実行の自主性が育まれることでした。今後は、強みである直販システムによる「課題解決型営業」や研究開発能力の更なる強化を行うとともに、地元福島県における経営品質活動の拠点づくりに力を注いでいくそうです。常に進化を遂げる日本全薬工業様に驚かされる一日でした。

(賛光精機(株) 総務部部长 永尾 貴光)



トップの集い（経営懇話会）開催

日鉄住金工材株式会社 (2017年度 新潟県経営品質賞 知事賞)



11月12日(月)に大宮ソニックシティビル会議室にて、第12回「トップの集い(経営懇話会)」が行われました。今回は、13年ぶりの新潟県経営品質賞知事賞を受賞された日鉄住金工材株式会社の石川昌弘社長を講師にお招きし「顧客に貢献する働きやすく生産性の高い会社づくり」というテーマで、ご講演いただきました。

日鉄住金工材は、新潟県上越市に本社・工場があり、ステンレス・チタン・その他金属及び合金を主材料とする製品の製造・加工・販売を行っています。売上の6割を占めるチタン製電着ドラムの日本シェア100%、海外シェア70%を占めています。また冬季五輪のモーグルで大活躍した上村愛子さんが愛用したストックも同社の製品だったそうで、日本のモノづくりを代表する会社です。

石川社長が就任した際に、従来のコスト削減(原価低減)・労務費削減をして製品を安く売るといった日本型のビジネスモデルは限界だと感じ、高くても売れるものを作る、モノ(コト) + サービスで付加価値を高めるといった発想の転換をされました。そして経営体質の改善を進めて、黒字になり、ボーナスが増えた時に社員が言った「この忙しさが続くと思うとゾーッとする」という

一言で給与を増やすだけでは社員は幸せになれないと悟り、2014年10月から経営品質に取り組むグッドカンパニーを目指すことにしたそうです。

数多く高いレベルの取り組みを実施されていますが、中でも社員が生き生き、活躍するための「かがやきサイクル」が非常に印象的でした。理想的な姿の実現を目指して「人・職場・会社、製品・サービス、顧客・地域・社会」の3つが相互の連携性を持ってバランス良く輝くための仕組みです。会社の目標を各部門、職場・個人まで展開しており、「個人宣言」

だけでなく個人の夢の実現を表す「幸せ円グラフ」、家族の激励なども見える化しています。温かさが伝わってくる家族的な取り組みです。また近年の生産ラインは既に埋まっており、数年先の営業活動を行っているという話は本当に驚きでした。2月に埼玉県経営品質協議会として日鉄住金工材をベンチマーキングする予定です。ワクワクする訪問になりそうで、今からとても楽しみにしています。

(新日本ビルサービス(株) 専務取締役 浅見 一廣)



講演いただいた、日鉄住金工材株式会社の石川昌弘社長

2018 アセスメントコース 開催



経営品質向上活動が活発に行われている組織には、推進を担うセルフアセッサーがいます。セルフアセッサーになるには、アセスメントコース（2日×3回）を修了する必要があります。

これまで全国で二十万人が受講し、現在は2,500名が認定セルフアセッサーの登録をしています。埼玉県在住・在勤者は104名ですが、協議会の法人会員と個人会員で現在登録しているのは23名にとどまっています。

会員組織のセルフアセッサーを増やそうと、埼玉県経営品質協議会の主催によるアセスメントコースA1が10月24日と25日に開催され、会員組織から10名が受講し、修了しました。（運営委員長 高橋 清）

【受講者の声】

株式会社アイオプト
代表取締役
大原 佳子



初めてアセスメントコースに参加させて頂き、社内で1年かけて学んできた経営品質を体系的に学べました。特に組織プロフィールは、理想的な姿に対して現状を認識し、その差が変革のための戦略課題になるという事は頭で理解していましたが、枠組みを見ることで理解が深まりました。

更に今まで経験してきたケーススタディ学習会よりもカテゴリー別に分けることで分かりやすく、とても楽しく学習が出来ました。

今回A1のみの受講を考えていましたが、A2、A3と続けて受講することを決意しました。

長野県経営品質協議会からベンチマーキング

11月14日に、長野県経営品質協議会（田島郁夫代表幹事）が、会員組織の新日本ビルサービス株式会社（関根一成代表取締役）にベンチマーキングに訪れました。昨年も千葉県経営品質協議会（諸岡靖彦代表幹事）が（一社）千葉県経営者協会（小島信夫会長）と合同でベンチマーキングされています。

お昼過ぎに到着し、社員食堂で昼食を共にしてから関根社長と浅見専務とで社内を案内して回りました。同社では「足利流5S」に取り組んでおり、トップダウン型ではないボトムアップ型の5Sの素晴らしさに参加者は一様に驚かされていました。

会議室に戻って、関根社長からパワーポイントを使って経営品質向上活動の取り組みについての紹介がありました。

最後に、埼玉県での経営品質向上活動の普及について、



長野県での活動の参考にしたいということで、埼玉県経営品質協議会の高橋運営委員長より活動報告と活発な質疑応答が行われました。